

# 令和 7 (2025)年度 学校安全 総合支援事業

危険を迅速に認知し、状況に応じた適切な判断により、自分を守る行動ができる児童生徒の育成を目指して



校訓

あかるく つよく たすけあう子

《拠点校》県立足利中央特別支援学校

モデル地域：足利市  
MODEL：ASHIKAGA CITY

《協力校》足利市立大月小学校

栃木県教育委員会



# 事業概要

令和7年7月、ロシアのカムチャツカ半島でマグニチュード8.8を観測する大地震が発生しました。日本から遠く離れた地震でしたが、国内でも津波警報が発表されたことにより200万人を超える人々に避難指示が出されました。本県においては、9月3日、前線や日中の気温上昇の影響で大気の状態が非常に不安定となり、大雨による浸水被害や車の水没、公共交通機関の遅れや停電、突風による倒木やビニールハウスの倒壊などの被害がありました。幸いなことに人的な被害はなかったものの、改めて、「自然災害は時と場所を選ばず起きる」ことを痛感させられました。防災教育を実施する上では、単なる情報提供や訓練にとどまるのではなく、自分が生活する場所の災害リスクを正しく理解し、災害を自分事として捉えることが自助・共助につながります。今年度は、足利市をモデル地域として、障害のある児童生徒に対して、様々な自

然災害に対する教育プログラムの開発・活用を通して、自ら命を守り抜くため「主体的に行動する態度」の育成に取り組んできました。自然災害に関する確かな知識を習得させ、起きた災害を迅速に認知し、状況に応じた適切な判断によって、自分の身を守る行動がとれる資質・能力を高めるために、外部専門家等と連携しカリキュラム・マネジメントの考え方を生かしながら、各領域を複合的に関連付けて単元を構成し、現実的な場面を想定した避難訓練の実施、計画的、系統的な防災教育を展開してきました。

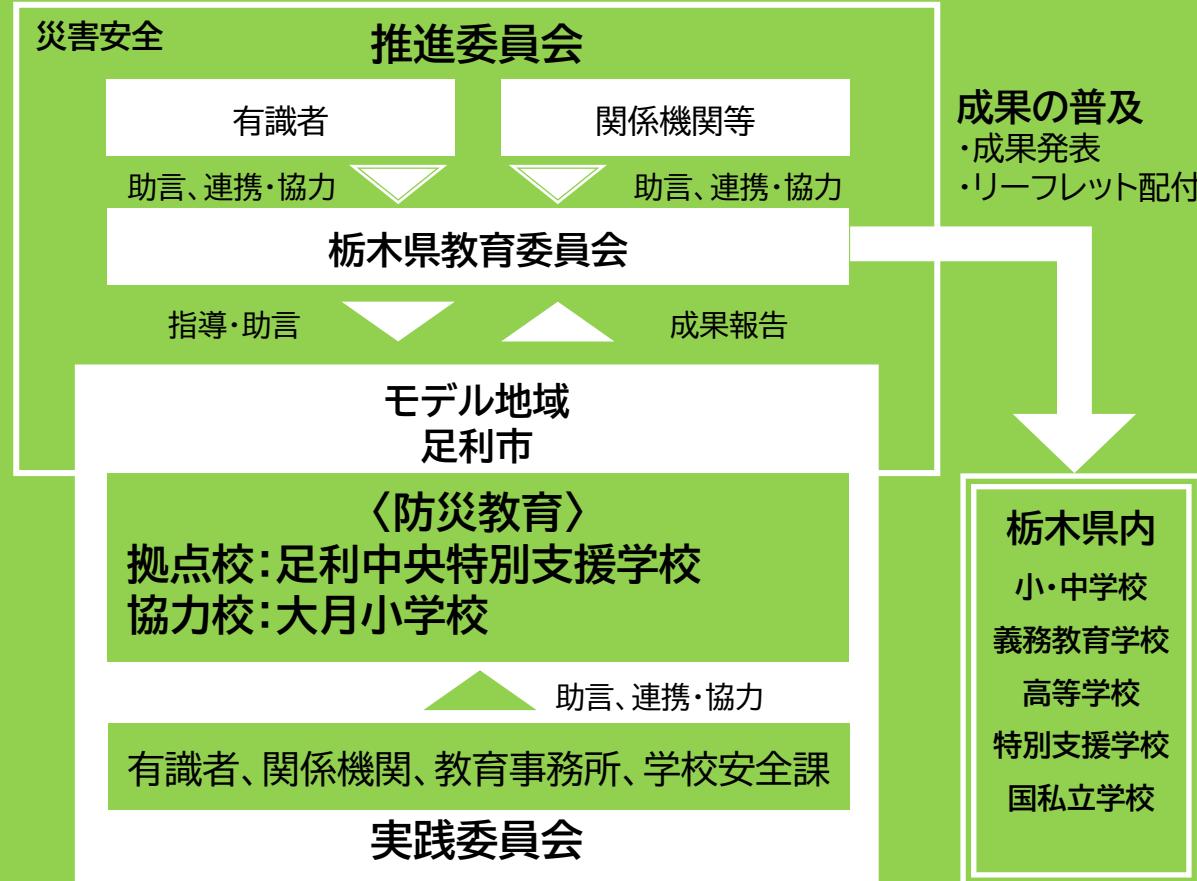
事業を進めるにあたっては、児童生徒への防災教育だけでなく、教職員や保護者、地域住民等、災害時に協力することが不可欠な方々と幅広く連携することにより、研究の充実・深化を図りました。



# 事業の流れ



# 事業体制



# 拠点校 足利中央特別支援学校の取組

全校児童生徒 281人(R7.12.24)

- 〈防災教育の充実〉・児童生徒の実態や発達段階等に応じた防災教育を行い、災害の状況に応じた「考える」「判断する」「行動する」力の育成を図る
- ・防災教育を通して、仲間との協力や思いやりの大切さについての理解を促進し、非常時においても他者や地域に貢献できる意識を育てる
- 〈職員研修の充実〉・教職員の災害への基本的な知識と災害発生時の対応力(支援力)の向上を図る
- ・防災組織体制について検証し、学校安全に関する環境を整備する

## 小学部

### 消防士と学ぶ火災予防



10月7日(火) 協力: 一般社団法人  
火災予防のONE LOVE

一般社団法人 火災予防のONE LOVEと地域の消防士の方をお迎えし、小学部全児童を対象に火災予防学習を実施しました。火災の危険性や予防の重要性の講話のほか、「みどりマン」と一緒に非常口マークを探す校内探検、防火扉の開閉体験、煙に見立てた布の下をハンカチで口元を覆って低い姿勢で避難する体験など、体験を通して学ぶ活動を行いました。

子どもたちは興味をもって意欲的に取り組み、防災への意識を高めるきっかけとなりました。



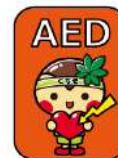
## 中学部

### 防災士と取り組む備えの工夫

10月14日(火) 協力: NPO法人  
栃木県防災士会

栃木県防災士会 理事 中川明佳子 様をお迎えし、中学部1年生を対象に防災学習を実施しました。防災リュックの中身の確認や防災〇×クイズ、新聞紙を使ったスリッパ作りなどを行いました。クイズでは、生徒たちが手を挙げて積極的に答える姿が見られ、スリッパ作りでは防災士の方に教わりながら、興味をもって取り組んでいました。

体験を通して防災の知識を深めることができ、また、身近なもので備える工夫を学ぶ良い機会となりました。



## 高等部

### 自衛隊による人命救助体験

11月19日(水) 協力: 自衛隊栃木地方協力本部  
足利地域事務所

自衛隊栃木地方協力本部 足利地域事務所の協力のもと、高等部2年生を対象に、「人命救助」をテーマとした防災学習を行いました。AEDを使った心肺蘇生の実演や、防災用資機材の紹介、物干し竿と毛布を使った応急担架づくりと搬送体験など、実践的な活動を通して防災への理解を深めました。

生徒たちは、体験を通して日頃の備えの大切さを実感するとともに、緊急時に必要な知識・技術や周囲の人と協力して行動することについて学びました。



## 避難所体験

### 避難所を知る～学びから広がる防災意識～

11月21日(金)～11月26日(水) 協力: 足利市危機管理課

本校体育館を会場に、実際の避難所を想定した体験活動を行いました。会場には、段ボールベッドを使った居住スペースや簡易トイレ、救護 TENTなどを設置し、避難所生活を再現しました。また、非常食体験スペースを設け、実際の非常食を食べる体験をしました。設営や片付けには高等部生徒も参加し、体験を支える立場として活動する中で、共助の意識を育む貴重な機会となりました。当日は、近隣の小学校の児童や保護者、地域の方にも来校いただき、地域とともに防災への理解を深める機会となりました。



## 職員研修

### 土砂災害を想定した引渡しシミュレーション

8月5日(火) 協力: 宇都宮地方気象台 足利市危機管理課

教職員を対象に、学校安全に関する研修を行いました。第1部では、宇都宮地方気象台と足利市危機管理課の職員による講話を通して、土砂災害への備えや情報収集の重要性を学びました。第2部では、土砂災害の発生を想定した引渡しシミュレーション訓練を行いました。学校の裏山が危険区域であることを踏まえ、北門を使用せずに安全な経路での誘導・引渡し方法を確認しました。講話と実践を組み合わせることで、災害時の対応を具体的にイメージし、冷静な行動やチームでの連携の重要性を再確認する機会となりました。

職員からは、「天気予報を災害の視点で捉える必要性を感じた」「地域に特化した知識を得ることができた」「講話と演習の両方があり、実際の場面をイメージしやすかった」「やってみて初めて見えてくる課題があった」など、多くの気付きや学びがあったとの声が寄せられました。



## 緊急地震速報訓練

10月14日(火) 13:10実施(予告なし)  
12月 1日(月) 9:30実施(予告なし)

事前の予告をせずに、緊急地震速報を活用した訓練を行いました。

児童生徒は、教師の話や指示を聞き、机の下に入ったり、「ダンゴムシ」や「カエル」のポーズをとったりして、身の安全を確保することができました。また、ヘルメットを着用して落下物から身を守る姿も見られました。

訓練後には、地震発生時に身を守るための行動について振り返りました。教師と一緒に安全な姿勢を再確認し、緊急地震速報が流れた際には落ち着いて指示を待つことの大切さを学びました。



## 土砂災害避難訓練

7月11日(金)

大雨により、学校北側区域に土砂災害警戒情報が発表されたことを想定し、避難訓練を行いました。

児童生徒は、北側の校舎から土砂が流れ込まない安全な場所へ避難しました。放送や教師の指示をしっかりと聞き、落ち着いた様子で速やかに避難することができました。

訓練終了後は、安全学習を行い、土砂災害の危険性や学校周辺の危険箇所について確認しました。

災害時に自分の命を守るためにどのような行動が必要かを考える機会となりました。



## 火災による避難訓練

9月29日(月)

調理室からの出火を想定した避難訓練を行いました。

児童生徒は、放送や教師の指示をよく聞き、ハンカチやタオルで口元を押さえながら、落ち着いて避難経路を通り、安全に待機場所まで避難することができました。

避難後は、消防署の方から避難の際の心得「お・か・し・も・ち」(押さない・かけない・しゃべらない・戻らない・近づかない)について話を聞きました。また、水消火器を使った初期消火の体験を通して、消火器の正しい使い方を学び、災害時に備える意識を高めることができました。



## 地震による引渡し訓練・非常食体験

11月5日(水)

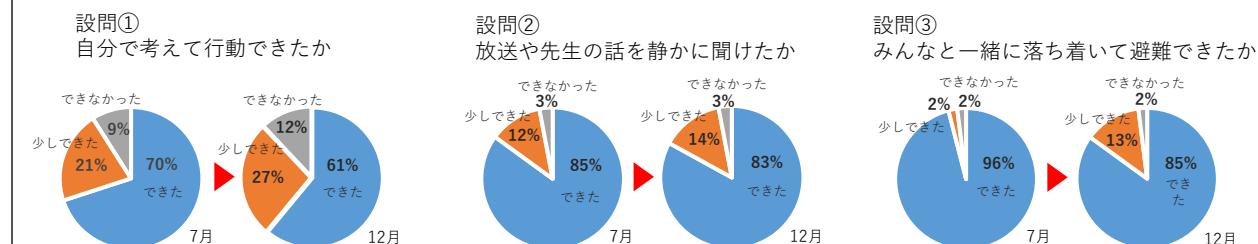
地震による引渡し訓練と非常食体験を行いました。

引渡し訓練では、震度6強の地震により、スクールバスや自力での下校が困難になる状況を想定して実施しました。児童生徒は、いつもと異なる下校方法でしたが、訓練を意識し、待機場所で保護者の迎えを静かに待つことができました。

非常食体験では、災害時に調理が困難な状況を想定し、パンやウエハースなどの給食が提供されました。普段と違う食事を通して、資源が限られた状況を理解し、その状況下での対応を学ぶことができました。



## (1) 児童生徒の変容 防災訓練 振り返りシートから



### 【考察】

- ・訓練後の振り返りでは「できた」が減少し、「少しできた」「できなかった」が増加した。
- ・教員からは、訓練を通じた行動面での成長も報告されており、学びが実践へとつながっていることがうかがえる。
- ・訓練や学習を通して、児童生徒自身ができない部分に気付き、自己評価が現実的になったことや、教員の評価が厳密になったことが数値の変化に影響したとみられる。
- ・これらは、児童生徒の振り返りの力や教員の見取りの精度が高まった結果であり、課題への気付きや行動を見直す姿勢が育ってきていると考えられる。

防災訓練や防災学習を通じて、児童生徒の振り返る力や自立した避難行動が定着し、放送を聞く力や判断力も向上した。「地震」「避難」などの言葉を覚え、災害への関心や命を守る意識も高まっている。また、児童生徒同士で声をかけ合ったり、柔軟に行動を変えたりする姿も見られるようになった。一方で、訓練内容によって理解に差が出る場面や、自信をもちにくい児童生徒も見られたため、今後は達成感を育む支援や指導の工夫をしていきたい。

## (2) 教職員の気付きと意識の変容

研修や訓練を通して教職員の防災意識と理解が向上し、特に土砂災害や災害時の役割認識に大きな改善が見られた。事後アンケートでは、全項目において「分からない」の回答はなくなり、一定の理解が全体に広がっていることがうかがえた。また、防災を自分事として捉える意識も高まっている。一方で、人員や設備面の不安があり、備えをさらに強化していくことが課題である。

## (3) 保護者の意識の変容、地域とのかかわり

アンケートや避難所体験を通して、保護者の防災意識が高まり、備えの質や実践性を意識する家庭が増えた。障害特性に応じた備えや、子どもと共に防災を考える姿勢も広がっている。一方で、避難所生活や子どもの特性への対応に不安を抱く声も多く、備えの内容や継続には個人差がある。保護者と連携しながら取組を進める工夫や、学校からの情報発信の充実が今後の課題である。また、地域と関わる機会を通じて、児童生徒への理解や共生の意識が地域に広がることを期待される。

## 今後に向けて

### ① 防災教育の体系的な充実

- ・防災学習の効果や理解を丁寧に振り返り、内容の整理と改善を進める。
- ・学年・学部の系統性を踏まえ、児童生徒の実態や発達段階等に応じた年間指導計画の整備を進める。

### ② 学校と家庭による防災意識の共有

- ・学校と家庭の意識共有に向けた取組を更に進め、情報共有の充実・連携強化を図る。

### ③ 地域と連携した支援体制づくり

- ・障害のある児童生徒の支援に向け、地域の理解と支援体制づくりを進める。
- ・行事に加えて避難訓練や日常の学習活動を積極的に公開し、継続的な理解と協力を促す。

### ④ 家庭と地域のつながりを目指して

- ・学校の取組を通して、地域の理解と支援や家庭とのつながりを広げ、保護者や児童生徒が安心して過ごせる環境づくりにつなげる。



## 協力校 大月小学校の取組

全校児童 74人(R7.12.24)

本校では、以下の4つの避難訓練を実施しました。

- 1 地震による火災発生時の避難訓練
- 2 緊急時における保護者への児童引き渡し避難訓練
- 3 洪水被害に対応した垂直避難訓練
- 4 不審者侵入に対応する避難訓練

これらの避難訓練に、子どもたちは、真剣な眼差しで取り組んでいました。自分や友だちの身を守るためには、どうすればよいのか、自分事として考え、正しく行動することができました。

また、教職員にとっては、児童の安全を確保できたのか、連絡、指示の伝達は円滑に行われたのか、状況に応じて冷静に行動できたのか、避難に必要な物や設備の確認とともに、職員間の連携について共通理解を図るなど、危機意識を高め、防災に向けた「心の準備」を整える機会とすることができました。

6、7月には、気象急変による雷への対応として、実際に保護者への児童引き渡しを実施しましたが、下校中に、雷鳴が聞こえたらどうすべきか、「自分の身は自分で守る」ことについて、学校における指導・支援とともに保護者や地域の方々の協力が大切であることを再確認しました。

11月25日には、足利中央特別支援学校での、避難所体験・非常食体験に5年生が参加しました。簡易ベッドやプライバシーに配慮した居住空間等を目の当たりにしながら、安全な日常生活の「ありがたさ」を感じるとともに、避難が必要な状況、場面、そして避難所において自分がとるべき行動について考える貴重な体験となりました。



## 栃木県教育研究発表大会

令和8(2026)年1月31日(土)に栃木県教育研究発表大会の特色ある取組部会で、本事業の発表を行いました。今後も本事業で得た成果等について県内に広く周知し、学校安全の充実に努めていきます。

### 推進委員会

宇都宮大学地域デザイン科学部准教授  
宇都宮大学共同教育学部准教授  
宇都宮大学大学院教育学研究科准教授  
宇都宮地方気象台次長  
栃木県防災士会理事  
消防防災課地域防災担当主査  
特別支援教育課指導主事  
安足教育事務所指導主事  
足利中央特別支援学校主幹教諭  
足利中央特別支援学校教諭

近藤 伸也(委員長)  
久保 元芳  
司城 紀代美  
稲垣 広己  
中川 明佳子  
稲葉 敬一  
手塚 禎幸  
高田 千秋  
菅沼 真弓  
岩佐 泰男 ※敬称略



### 実践委員会

足利中央特別支援学校校長  
栃木県防災士会理事(学校安全アドバイザー)  
大月小学校教頭  
安足教育事務所指導主事  
足利中央特別支援学校主幹教諭  
足利中央特別支援学校教諭  
足利中央特別支援学校教諭

佐藤 彰子(委員長)  
中川 明佳子  
真下 典久  
高田 千秋  
菅沼 真弓  
岩佐 泰男  
毛塚 美代子

※敬称略

